

普及活動の成果

課 題 名	露地園芸作物産地の育成・拡大による県北水田地帯の活性化及び集落営農法人の経営安定化	振 興 局 名	県北振興局
活 動 対 象	平戸市向月地区、 松浦市（農）長溪の風御厨木場	実 施 期 間	平成30年4月～平成31年3月

【対象の概要】

平戸市向月地区：基盤整備実施中の地区であり、認定農業者2名を含む12戸が担い手で、漁業と農業の兼業者が多い。松浦市（農）長溪の風御厨木場：平成29年度に新規に設立された集落営農法人（35戸）。

【課題設定の背景】

- 1 新規品目の推進、新規産地の育成には複数年に渡って多面的な支援が必要であることから、関係機関が連携して推進体制を構築し、継続的な活動に取り組むことが必要。
- 2 平戸市（向月地区）の現状：担い手は漁業と農業の兼業者が多く、後継ぎも比較的集落に残っているが、水田の裏作利用が少なく、基盤整備を契機にさらなる営農振興が重要。
- 3 松浦市（農）長溪の風御厨木場の現状：中山間地帯で基盤整備された水田も多いが、水田からの転作作物の導入定着に対する支援が必要。

【活動目標】

- 1 新規栽培者の確保、新規産地育成を推進するために、関係機関による情報共有、支援策並びに役割分担等のための検討会運営を支援する。
- 2 平戸市向月地区：地域における座談会等により課題の整理、地域に適した推進品目の選定、作付支援を行い、水田裏作の取組推進を図る。
- 3 松浦市（農）長溪の風御厨木場：水田からの転作作物として選定された「ブロッコリー」に対する栽培技術及び排水対策に関する支援を行い、産地としての定着化を図る。

【関係機関との連携（活動体制・役割分担）】

平戸市、松浦市、JAながさき西海、長崎県県北振興局等からなる平戸及び松浦営農技術者会を中心として推進方針の協議、進捗の情報共有を行った。

【活動経過】

- 1 連携会議・担当者会支援
 - ・各地区で随時、市、JA、振興局担当者会議を開催し、進捗状況など情報共有及び推進手法を検討。
- 2 平戸地区での露地園芸品目推進
 - ・向月地区での品目推進、座談会に向けた集落リーダーと意見交換を踏まえ、関係機関チーム会による推進品目選定等を行い、集落座談会を開催し、露地野菜の労働・収益性、ブロッコリー栽培講習を行った。また展示圃（ブロッコリー：5戸、10a）を設置するとともに、関係機関と連携し巡回指導、収量検見・出荷量調査を実施。また次年度作付けに向けた推進チーム会を開催した。
- 3 松浦地区での露地園芸品目推進
 - ・チーム会を開催し、関係機関（JA、松浦市）と情報共有を行った。また、現地検討会を開催し、除草や施肥など栽培管理上の課題をJA担当者と連携して情報共有した。
 - ・雲仙市のJA島原雲仙のブロッコリー優良産地視察や額縁明渠用機械の実演会を実施し、排水対策の検討を行った。

【普及活動の成果】

1 連携会議・担当者会支援

- 地区ごとには営農技術者会を活用し、情報の共有化が図られ、共通認識の上で露地園芸野菜の推進が図ることができた。

2 平戸地区での露地園芸品目推進

- 向月地区では生産者13名が集落座談会に出席。多くの方が半農半漁であり、毎日収穫・出荷が難しいことから、ブロッコリー以外の品目導入にも関心が高く、また基盤整備による農地条件の改善に伴い、今後漁業よりも農業を主体に取組む考えも一部にある等、高収益営農の品目導入に意欲を高めた。
- ブロッコリー展示圃は概ね栽培は順調で出荷もできたが、単価安や一部生産者において管理遅れで害虫被害が生じるなど、半農半漁のなかで管理が困難となった方もいることが把握でき、今後推進にあたっては人選を十分に行う必要がある。またチーム会において、高収益を実現できる営農類型について意見交換を実施し、今後は抑制かぼちゃ（貯蔵）を推進することとした。

3 松浦地区での露地園芸品目推進

- 現地検討会の開催により除草、肥培管理など栽培上の注意点について関係機関と情報共有を行い課題解決に向け連携して行う機運が高まった。
- 視察研修では雲仙市の優良事例を見聞することにより、今後のブロッコリーの振興に役立った。

【対象の声】

- 現在、ブロッコリーを試作しているが、本地域は半農半漁であり、他の品目も試してみたいので、引き続き情報提供や講習もお願いしたい。

【今後の課題】

1 連携会議・担当者会支援

- 地区ごと営農技術者会で情報の共有化が図られた一方で、地域への推進手法等、工夫すべき部分もあるため、各担当者の意識改善や他地区事例を参考にすることが必要。

2 平戸地区での露地園芸品目推進

- 向月地区では、座談会を開催し、高収益を実現できる営農類型を提示し、今後の方向性について意見交換を行い（かぼちゃなど当地域に適切な品目・情報の提供含む）、さらなる推進を図る。
- 本年産は単価安であったが、県北地区でのブロッコリー産地づくりの観点から、1戸の生産者に対して複数の作型を組み合わせるなど、生産性の効率化を図るように本展示圃を契機に提案を行いたい。また管理遅れは、漁業との労力分配が適切でなかったため、当該者に対する作付けは、他品目での取組みの検討が必要。
- 抑制かぼちゃ（貯蔵）は単価も安定しており、当地区の生産者でも適切に管理が可能と考えられるため、次年度に導入推進を図っていく。

3 松浦地区での露地園芸品目推進

- 集落内で労力確保のためのアンケートを実施し、ブロッコリー定植時等の労力確保を図り、適期栽培管理ができる体制を構築する。
- 集落内の取組みから竜尾川土地改良区へと水田畑地化プランの取組みを検討していく。
- 「労働力提供に関する調査」の結果を分析し、労働力の調整について支援する。除草、病害虫防除など基本技術の励行について検討会を通じ行う。

【成果の活用及び普及活動上の留意点】 なし

【発表・参考資料】 なし



＜向月地区 ブロッコリー展示圃＞